

かんがい用水を活用した施設栽培に転換し、なす産地化に貢献 ～福岡県柳川市 E 経営体～

経営体の概要

事業実施前：平成3年
基幹作物：なす
経営面積：38a

現在：令和5年
基幹作物：なす
経営面積：56a

土地改良事業による生産基盤（農地、農業水利施設等）の変化

【事業実施前】

- クリーク底付近の水は塩分濃度が高い。地下水は塩分及び鉄分を含み、なす栽培に利用しにくい。
- クリークは秋冬期に水位が低下し、かんがい用水の確保が困難。

【事業実施後】

- 国営筑後川下流事業により用水を確保。
- 秋冬期もクリークから安定取水。



水源となるクリーク



クリークから取水するポンプ

営農改善、経営転換等のポイント

①経営規模の拡大

平成3年から施設なす栽培を経営の柱として38aで開始し、国営筑後川下流事業により農業用水の安定取水が可能となり栽培も安定。その後、補助事業により造成されたハウス団地を購入し、現在では施設面積56aに拡大。南筑後地域でトップクラスの経営面積に成長した。



②単収・品質の向上

国営筑後川下流事業により農業用水が安定確保されたため、クリークから個人のポンプで揚水し、チューブによりかん水することにより単収が向上し、安定的な生産が行われている。

また、夏期に、かん水陽熱処理を植付作業前に行うことにより、病害の発生を抑制している。



③栽培技術の確立・向上

平成23年度にハウスを新設し、炭酸ガス発生装置を導入することにより生育、収量の向上につなげている。



事業概要

事業種：国営筑後川下流土地改良事業
関係市町：福岡県久留米市他7市町
佐賀県佐賀市他11市町
受益面積：40,899ha
事業期間：昭和51年～平成30年
事業目的：用水改良
主要工事：揚水機場3箇所、導水路L=23.9km
幹線水路L=208.5km 等

位置図



筑後川下流地区

<問い合わせ先>

九州農政局
農村振興部農地整備課
競争力強化推進係
電話：096-300-6498

(令和5年度調査時点)